

平成28年度第2回市民評価委員会専門部会

(快適交流・経済活力)

日時：平成28年9月16日（金）14：00から15：00まで

会場：市庁舎3階 32会議室

- 事業名：1 公営住宅建替推進事業
2 自転車道整備事業
3 商業振興センター駐車場使用料
4 高齢者就業機会拡大推進事業補助金

- 参加者：●市民評価委員
佐々木部会長、山崎委員、大野委員
●担当課
建築住宅課、道路課、産業振興課
●事務局
小島副課長、佐藤係長（まちづくり担当）

公営住宅建替推進事業（建築住宅課）

14：00から14：15まで

建築住宅課：高須賀次長、眞鍋係長

1 概要説明

担当課より概要説明

2 質疑応答

Q：耐震診断をして補強が出来ないから建替えるのか。

A：事業対象の治良丸南団地はブロック造の長屋タイプで、設備も古く、間取りも含めて、現在の公営住宅の整備基準に全くあっていないため、住環境の整備を目的として建替えを行っている。

Q：平屋建ての住宅を集約して、4～5階建ての住宅にしないのか。

A：出来るだけ集約を図りたいが、いろいろ規制もあるため、3階建ての2棟を建設し、平屋50戸を58戸としている。国の基準で建設しているが、エレベーターの設置やバリアフリー等、民間のマンションと同程度の住環境の整備をしており、躯体についても耐用年数を100年とした基準で建設している。

Q：電気設備等は躯体の中に入っているのか。

A：昔は躯体の中に電気設備等を入れていたが、今はなるべく分けるようにしている。ピットを設けて、そこに配管・配線を入れており、改修の際には躯体をさわらずにピットを空けて改修することになる。躯体は100年持ったとしても、設備は2～30年毎に更新が必要になる。

Q：最終的に公営住宅は何戸必要なのか。

A：難しい質問だが、現在2,000戸あるが、そこまでは必要ないと考えている。それならば建替えは必要ないのかといえばそうではなく、耐用年数を過ぎてしまっている住宅がたくさんあるが、この10年間全く建て替えない状態が続いていた。現在、公営住宅等長寿命化計画により、計画的に建替えをしていく計画だが、最終的には1,500～1,600戸程度が必要になってくると考えている。

Q：投入費用の対象単位コストは、1戸あたりとしているのか。

A：建替え対象の世帯数としている。

Q：平成23年度から計画的に建替えているのか。

A：現在の治良丸南団地の前に、南小松原団地の建替えを実施している。

Q：10年間の計画か。

A：平成33年までの10年計画である。

3 評価結果

現状のまま継続する。

老朽化した公営住宅について、バリアフリー等住環境の整備を図るため、計画的な建替えに継続的に取り組んでいただきたい。

自転車道整備事業（道路課）

14:15から14:30まで
道路課：秋月課長、秋月副課長

1 概要説明

担当課より概要説明

2 質疑応答

Q：サイクリングを主体とした事業だと思うが、通学の自転車に危険を感じることがある。通学路の自転車道整備も考えてもらいたい。

A：自転車は道路交通法上軽車両となるため、原則車道を走ることになるが、車道が危険な場合等は、歩道を通行することも可能である。事故を減らすためにも、自転車がどこを通ればいいのか明示してやる必要がある。

Q：平成27年度は計画の策定費で、28年度は具体的な整備費か。

A：そうである。道路に自転車の通行帯を明示していく費用になる。

Q：直接道路を拡幅したりする事業ではないのか。

A：そうではない。道路を拡幅するには用地買収も伴い容易ではないため、今の道路の幅員の中で再配分したり、自転車が走る位置を明示してやることで、車を運転する人が認識して事故を減らそうという事業になる。

Q：今年度策定した計画は、観光と一体となって啓発したりしているのか。

A：道路課は道路管理者としてハード面の事業を行っているが、自転車利用者のマナーも含めて総合的に取り組まないと事故は減らない。それぞれの事業課と連携しながら取り組んでいく。

Q：事業費もかなり高額だが、どんな計画ができたのか。

A：「整備基本計画」を提示して説明。

3 評価結果

重点化する。

良い計画が策定できたため、計画に沿って重点化して整備を進めていただ

きたい。ただし、ハード面の整備だけにとどまらず、事故を減らすためのソフト面の取組や観光面についても、関係課と連携を取りながら進めていただきたい。

商業振興センター駐車場使用料（産業振興課）

14:30から14:45まで

産業振興課：黒下次長、須藤副課長、藤田係長

1 概要説明

担当課より概要説明

2 質疑応答

Q：ドームにはいまが核になれば商店街の発展はない。商店街連盟とはどんな話がされているのか。

A：現在はイベント用として貸し出しをしているが、2年ほど前から、商店街と商工会議所と市で協議会を設立しており、その中で食市場について、月1回1週間程度開催し、出店者や集客がどうなのか試行する予定としている。

Q：あかがねミュージアムとの比較になるが、人を呼べるかどうかは企画力にかかってくる。

A：夏祭りや冬の七夕等のイベントを実施している他、登り道では、月1回百縁市を開催している。

Q：市が提案するのではなく、商店街がどんどん提案すればもっと活気づく。

A：空き店舗もどんどん増えており、一緒に考えていきたい。

Q：店舗を集約する動きはないのか。

A：そういった動きは聞いてないが、所有者の了解が取れば、空き店舗の貸し出しを行っている。

Q：高知のひろめ市場等は非常に活気がある。ドームの市場化は良いがドームに頼りすぎてもいけない。駐車場の確保は最低限取り組まなければならない基本的なこと。イベントが単発で終わってしまっは意味がない。商売は365日続くので、色々な仕掛けが必要になってくる。

3 評価結果

現状のまま継続する。

ドームにははまを核に商店街の活性化に繋がるような様々な仕掛けを考えていただきたいが、そのためにも駐車場の確保は最低限必要であるため、現状のまま継続していただきたい。

高齢者就業機会拡大推進事業補助金（産業振興課）

14：45から14：50まで

産業振興課：黒下次長、須藤副課長、藤田係長

1 概要説明

担当課より概要説明

2 質疑応答

Q：就業開拓員はどんな仕事をしているのか。

A：8時30分から17時までの勤務、営業の経験者で、主には訪問して仕事がないか調査をしているほか、シルバー会員の勧誘や新規に開拓した仕事にシルバー会員が面接に行く際の付き添い等を行っている。

Q：シルバー人材センターの人員を探しているのか。

A：シルバーの会員も探しているが、シルバーの仕事も探している。

Q：投入費用の150万円はシルバーに対する補助金か。

A：そうである。

Q：シルバーには年齢制限はあるのか。

A：何歳までというのはないが、60歳以上となっている。

Q：どういった内容の仕事をしているのか。

A：新規就業者については派遣が多いが、カート整理や老人ホームの宿直、草刈りなどである。

Q：高齢者にも色々な技術を持った人がいる。請負う側の需要や本人のやりがいなど、うまくマッチングすればよい。

Q：150万円の内訳は。

A：ほぼ人件費になる。

Q：就業希望職種はシルバーでは分かるのか。

A：会員がどんな仕事がしたいのかはシルバーでつかんでいる。こんな仕事を頼みたいということで、シルバーに相談すれば、その仕事にあった人を紹介してくれる。

Q：元気な高齢者も多く、できるだけ社会に関わってもらう方が良い。市も補助金を渡すだけでなく、使い道についても考えていただきたい。

Q：運送会社だが、運転手の人手不足が顕著で、ハローワークに行っても人がいない。シルバーでもインターネット等で情報発信していただけるとありがたい。

Q：企業の採用履歴等も残っていれば、他の企業も安心して頼みやすくなる。

3 評価結果

現状のまま継続する。

補助金の使い道にも注視し、高齢者の社会参加や生きがいにつながるよう、現状のまま継続していただきたい。